

InnoTrans2010 報告

鉄道総研では、2010年9月21日から24日まで、ドイツのベルリンで開催された「InnoTrans2010」に参加し、開発商品の展示と世界の鉄道技術に関する動向の調査を行いました。

InnoTransとは、世界最大の鉄道技術に関する総合見本市で、ドイツ・ベルリンにある「メッセ・ベルリン」(図1)を会場として2年おきに開催されています。今回で8回目の開催となり、期間中の来場者数は110カ国から106,612人(前回86,519人)、出展団体数は45カ国から2,242社(前回41カ国から1,912社)にも及ぶ過去最大の規模となりました。この見本市は、屋内展示場でのブース出展に加え、敷地内に敷設された線路を活用した屋外実車展示が最大の特徴の一つで、レール延長約3,500mに121両の実車展示が行われました。

鉄道総研にとって2回目となる今回の出展では、鉄道総研の紹介パネル展示、商品開発パートナーである5社(KYB, クラレ, RRR工法協会, テス, ニチアス)と共同開発商品の紹介、プレゼンテーションなどを実施しました(図2)。

世界各国から多くの鉄道事業者や鉄道関連メーカーなどの鉄道関連最新技術の出展が集まっており、世界の鉄道技術の動向を知るうえで絶好の機会であったと思います。以下にその概要をご報告します。

まず、鉄道総合メーカー大手3社(ビッグ・スリー)のアルストム(フランス)、シーメンス(ドイツ)、ボンバルディア(カナダ、鉄道部門の本部はドイツ)は、屋内展示

場ではいずれも広いスペースを確保して出展していました(図3)。各社とも総合メーカーらしく、車両の紹介のみならず、電気設備、運行管理システム、乗務員訓練システムなどの展示が行われていました。ただし、ブースでの展示品は少なく抑えられており、椅子やテーブルを配置して軽食などが無料でふるまわれ、賑わいのある情報交換の場、重要な商談の場として活用していました。屋外展示場では、3社とも複数の車両を展示していましたが、やはり新型の高速車両をメイン展示と位置付けていました。各社の新型高速車両としては、アルストムから新型ペンドリノー(New Pendolino, 図4)、シーメンスからヴェラロD(Velaro D)、ボンバルディアからゼフィーロ(Zefiro, モックアップ)が



図2 鉄道総研ブース



図1 InnoTrans会場正門



図3 ボンバルディア屋内展示ブース



図4 新型ペンドリーノ(アルストム)



図5 軌道関連部品の展示(シュヴィハーク社)

出展されていました。屋外展示車両の多くは実車で、台車、集電設備、運転席、車内設備などを細部まで間近に見ることができました。

鉄道事業者にとっても自社の活動をアピールする絶好の場であったと思います。地元のドイツ鉄道(DB)とフランス国鉄(SNCF)が強い印象を与えていたほか、オーストリア国鉄、スイス国鉄、中国国鉄などの鉄道事業者が出展していました。各社では、自社の鉄道ビジネスの世界展開や、メンテナンスなどに関する取り組みの紹介が行われていました。鉄道関連の研究所としては、韓国鉄道技術研究院(KRRI)がブースを構えていました。

新興工業国の躍進ぶりにも目ざましいものがありました。人と環境にやさしい公共交通として価値が再認識されているトラムの展示については、屋外実車展示4社中3社がポーランドなど東欧企業であり、この分野での躍進を感じました。ブラジルからはブラジル鉄道産業組合を中心とした25社から出展があり、どのブースも多数の来場者でにぎわっていました。また、中国からは中国国鉄や車両メーカーなどをはじめとする48社が出展していました。中国国鉄では高速鉄道ネットワークの充実をPRする展示が印象的でした。また、東欧などこれら新興国からは、出展関係者のみならず多数の一般来場者がありました。

屋内展示場では、このほか軌道、台車、車内接客設備などに関するパーツメーカーの出展も多数見られました(図5)。また、屋外展示場では、先述の「ビッグ・スリー」の新型高速鉄道車両やトラムのほか、電気機関車、ディーゼル機関車、電車、気動車、客車、貨車、検測車、整備用車両、レトロ調蒸気機関車とあらゆるジャンルにわたり、相当の見応えがありました。



図6 JORSA JAPANブース

なお、日本からは26社が出展しました。鉄道総研のほか、東芝、日立製作所などのメーカーがそれぞれのブースを出展し、また、日本鉄道車両輸出組合(JORSA)が中心となった「JAPANブース」の出展がありました(図6)。JAPANブースでは、JR東日本、東京メトロの鉄道事業者2社をはじめとする17社の積極的な展示が行われていましたが、地元ヨーロッパ勢や成長著しいアジア勢に比べると、若干控え目のように思われました。

次回は、2012年9月18日～21日、同じくメッセ・ベルリンで開催される予定です。私たちは、日本の鉄道業界の世界におけるプレゼンスのさらなる向上を目指し、国内の鉄道事業者など鉄道に関わる人々との連携を強化しつつ、国際的な動向の調査やPR活動など、さまざまな取り組みを進めていきたいと考えています。

(事業推進室 藤原浩史)